

研究成果情報		園 芸	3 9	果 樹	病 害 虫
新技術・情報名	いちじくの品種別ネコブセンチュウ抵抗性		分 類	③	

1. 成果の内容

1)技術・情報の内容及び特徴

いちじく20品種とイヌビワ（野生種）のなかで、「蓬萊柿」、「イヌビワ」、「セレスト」、「カプリ・フィッグ6085」及び「ピオレ・ドーフィン」の5品種は、ネコブセンチュウに抵抗性が認められる。

(1) 「イヌビワ」を除く、抵抗性の認められる4品種は、「榊井ドーフィン」の台木として接木すると、活着率は約70%以上で、接木親和性は高い。

(2) 「イヌビワ」は野生種であり、接木親和性がない。

2)技術・情報の適用効果

ネコブセンチュウに抵抗性の認められる品種は、「榊井ドーフィン」の台木として利用でき、接木栽培の可能性がある。

3)適用範囲

いちじくの研究場所及び「榊井ドーフィン」の産地。

4)成果の利活用・普及指導上の留意点

(1) 「蓬萊柿」は近年、株枯れ病に弱いと指摘されており、台木としては使えない。

(2) いちじくは挿し木による自根繁殖で栽培が行なわれているので、台木の種類により、接木後の果実の生産性（熟期、収量、大きさ等）を十分確認して接木栽培を普及に移す必要がある。

2. 具体的データ

表1 ネコブセンチュウの品種別抵抗性 (昭和63年～平成3年)

品 種	ゴール指数*	評価**
蓬 菜 柿	1. 1	◎
カ ド タ	2. 8	×
ネグロ・ラーゴ	3. 0	×
セレスト	2. 5	○
カプリ・フィグ6085	2. 0	○
Umur Bey	3. 5	×
H・A・A-9	3. 2	×
イヌビワ	0. 3	◎
Sari Lop	4. 0	×
Erkek Incir	4. 0	×
Genoa White	3. 5	×
King	3. 0	×
Capri-T	4. 0	×
Conadria	3. 5	×
Zidil	4. 0	×
谷川	4. 0	×
Ischia Black	3. 5	×
Du Roi	3. 5	×
ピオレ・ドーフィン	2. 5	○
アチクド・アルゼンツィユ	3. 0	×
榊井ドーフィン (対照)	4. 0	×

注) ①* : 寄生度階級図により、4 (甚)～0 (無)の5段階評価
 ②** : ◎ (抵抗性強)、○ (抵抗性有)、× (抵抗性無)

表2 榊井ドーフィンとの接木親和性 (平成元年～3年)

台木品種	蓬菜柿	イヌビワ	ピオレ・ドーフィン	セレスト	カプリフィグ6085
活着率 (%)	68	0	75	80	75

3. その他特記事項

担当部科室名 : 豊前分場 果樹研究室

研究担当者名 : 正田耕二・栗村光男

研究課題名 : いちじくのネコブセンチュウ防除対策

期 間 : 昭和62年～平成3年

予算区分 : 経常

既発表論文・資料名等 : 昭和63～平成3年度 豊前分場 果樹試験成績書

取りまとめ責任者名 : 正田耕二